



みのる法律事務所便り
第374号
令和3年6月



みのる法律事務所
弁護士 千田 實
〒021-0853
岩手県一関市字相去57番地5
TEL: 0191-23-8960
FAX: 0191-23-8950

い な べ ん だ べ ん く
田舎弁護士の駄弁句

95



知らせたい 原発事故の 恐ろしさ

見殺しにされた 寝たきり老人



令和3年5月29日
あがてらうきよのすて
青空浮世乃捨

令和3年5月28日に、三陸印刷株式会社様より、『福島原発事故と老人の死－損害賠償請求事件記録－』が納入されました。発行日は2021年5月31日となっていますが、3日前に納品されました。

この事務所便りを読んで下さっている皆様に、いの一冊に読んで戴きたく、この事務所便りと一緒にお送り致します。「はじめに」と「おわりに」だけでもお読み戴ければ幸甚です。

福島原発事故において、多くの寝たきり老人が見殺しにされたという事実を述べています。関心のある方は、その経緯が病院と施設側が作成した報告書に記されています。この本には、その報告書を記載していますので、中身をお読み下さい。

女川原発（宮城県石巻市）の再稼働に宮城県知事が同意したとのことです。女川原発で事故が起きたら、直線で70km位しか離れていない岩手県一関市に住んでいる老人である私も、見殺しにされるのではないかと心配しています。

いなべん だべんく
田舎弁護士の駄弁句 ⑨6

原発は コントロールできぬ 鉄人28号

10年過ぎて 確信となる



令和3年5月29日

青空浮世乃捨

東日本大震災、三陸沿岸巨大津波から2カ月が過ぎ、いくらか落ち着いた平成23（2011）年5月18日に、「原発は コントロールできぬ 鉄人28号」という駄弁句を詠みました。その時のコメントは次の通りです。

「福島^{さんじょう}原発の惨状を知りました。原発の近くに住んでいた人とは、未だ連絡が取れません。その原発を造った東京電力も、それを許した国も、大震災から2カ月が経過したというのに、未だ決定的な対策が取れていないようです。

造った人間がコントロールできないのでは、恐くて仕方ありません。鉄人28号や鉄腕アトムのような強力なロボットを造ったものの、コントロールができないとすれば恐ろしいこととなります。鉄人28号や鉄腕アトムが暴れ出しても止められないということとなります。

今度の原発事故に対する東電や政府の対応を見ていると、そんな思いがしてきます。『想定外』という言葉が聞かえてきますが、人間の力でコントロールのできないような危険な物を造り出す人は、万が一を考え尽くしておかなければならないと思います。『想定外』では済まないのです。」

あれから10年が経過しました。このコメントの通りになったという思いがします。自動車事故も危険な行為ですが、自動車事故は人間の力でコントロールできますので、自動車の運転は「許された危険」と言えます。

ですが、原発事故は10年経った今も、使用済核燃料の処理^{おせんすい}も汚染水の処理も出来ていません。人間の力でコントロールができない危険は「許されない危険」です。原発の再稼働も原発の新設も許されません。

新刊書のご案内と謹呈

田舎^{いなべん}弁護士^{べんじん}の駄弁^{だべん}句^くでも紹介しましたが、『福島原発事故と老人の死—損害賠償請求事件記録—』が発行の運びとなりました。この事務所便りをお読みの方に謹呈させていただきますので、お目を通して戴ければ幸甚です。

ご多忙な方は、「はじめに」と「おわりに」だけでもお読み戴ければ幸甚です。福島原発事故から10年が経過しましたが、今なお、福島原発事故の被害者は大勢いるのです。被害者救済もできていないのに、東京オリンピックなどお祭り騒ぎをしている人類に対し、新型コロナウイルスは警鐘^{けいしょう}を鳴らしているような気がします。如何なものでしょうか。

そんな思いでいる折に、福島原発事故で見殺しにされたという寝たきり老人の遺族から、国や電力会社の責任を追及してほしいとの託福^{たくふく}依頼を受け、それがきっかけでこの本を書きました。

自民党は、原発の再開、新設の方向を打ち出していますが、この本を読んで猛省してほしいのです。そんな思いを込めてこの本を書きました。

ついでに、『^{かしわさきかりわ}柏崎刈羽原発テロ防止最悪』の記事に思う—原発は受身的核兵器—という冊子をみのる法律事務所の事務局が手製で作りました。これも同封しますので、お読み戴ければ幸甚です。

過去に、『原発は受身的核兵器』という本を平成26（2014）年5月28日に発刊しています。原発をテロリストや敵国が攻撃したら、核兵器で攻撃されたと同じ結果が出る。だから原発は、敵国から攻撃されたら、原爆と同じだという本です。

原発は、原爆のように敵国を攻撃するものではないので、自ら働きかける、つまり能動的兵力ではありませんが、他から攻撃されたら、原爆を投下されたと同じような結果が出ます。「受身的核兵器」になると述べました。

そのような危険のある原発は、国によって、つまり防衛省によって、もっと具体的に言えば、自衛隊によって、徹底的に防衛されているものと確信していました。

しかしそれは、私の思い込みに過ぎず、原発は無防備だったのです。テロリストや敵国は、日本の原発をいつでも簡単に攻撃できる状態となっていることが新

聞記事で分かりました。びっくりして『柏崎刈羽原発テロ防止最悪』の記事に思う一原発は受身的核兵器」という駄文を書きました。

『みのる法律事務所便り第374号—令和3年6月号』は原発の話に終始してしまいました。

人類を滅亡させる原因は、新型コロナウイルスのような異人類、つまり、人類でないものの攻撃が考えられますが、それに対しては、人類は一致団結して立ち向かうことになるのは当然です。米国だ、中国だ、など言っている問題ではありません。世界中でワクチンを投与しようとしている姿に、いずれコロナ問題は終息するだろうという思いがします。

人類を滅亡させる原因のもう一つは核です。核は、人類が造ったもので、異人類との闘いではありません。人類が核の製造、使用を止めれば解消できる問題です。

人類が繁栄するためには、エネルギーの確保は不可欠です。石炭、石油の使用はエネルギー確保のため有用でした。しかし、地球温暖化問題で、それをコントロールしなければならぬ状況の中で、核燃料の有効性は理解できますが、使用済核燃料の処理、汚染水の処理などが人間の力ではコントロール出来ない以上、核をエネルギーに使うことは止めなければならないのです。

核を使わなくとも、他にエネルギー源を求めるための人類の知恵を結集すればいいのです。「再生可能エネルギー」という言葉がありますが、この場合の「再生」とは「使えなくなったものを、もう一度使えるようにする」という意味と言うより、「燃えカスの出ないエネルギー」と言った意味ではないかと思います。いかがでしょうか。

燃えカスの出ないエネルギーには、太陽熱、風力、海流、水力などはすぐに頭に浮かびますが、考えればもっと思い付くでしょう。科学者の皆さんに期待します。原発を再稼働させるとか、新設するとか言う政治家の先生方には、期待はしません。もともとそういう能力のない人達で、金儲けと権力欲だけが人一倍強い人が多いように見えますが、いかがでしょうか。

